

三田を発信、あなたも舞台俳優に挑戦しませんか！

故郷三田の偉人・『川本幸民伝』二幕十九場の脚本完成

三田は偉人がいっぱい
自分の勤めている会社が誇りに思えたら。自分の家族や友人を誇りに思えたら。自分の住んでいる地域を誇りに思えたら。自分の職業を誇りに思えたら、その人は「幸せだ」と思います。誇りに思えることは自慢してみたいものです。勿論、そこには謙遜も含まれての自慢でな



市の後援を竹内市長にお願いする中畑氏。

ければ嫌味になりませんが……。随分と私は「三田自慢」をして来ましたが。今もそのことに変わりはありません。その一つが、歴史を築いて来られた偉人と称される先人が三田にはたくさんいらっしゃることで。その人たちは三田に止まらず、日本の国までも影響を与える活躍をされた事実です。

闇に埋もれていた人

最近、宝塚歌劇団で上演された『黎明の風』とNHKテレビで放映された『ドラマスベ シヤル・白洲次郎』そして、大丸ミュージアムKOBEM

で開催された『白洲次郎と白洲正子展』等で、主人公・白洲次郎・正子さんの偉業が紹介され、脚光を浴びています。「昭和史の鍵を握る人物でありながら闇に埋もれていた人」とNHKは紹介しています。ご先祖が三田の人で、白洲家の墓所が三田の心月院にあることからご夫婦も心月院に眠っておられます。そんな偉人のお墓が三田にあるんですよ」と誇りに思う私はおかしいでしょうか。三田小学校の校門の横に昭和四十八年建立の川本幸民顕彰碑があることは知っていました。が、川本幸民は日本で初めてビールを醸造した人、それだけの知識でした。

『川本幸民伝』の脚本完成

演劇の道に入って、

実在した人物が登場

するお芝居に出会う度に、川本幸民伝は芝居にはならないのかとよく思ったものですが、怠慢で学習をせぬまま三十年が経ちました。最近になって過去の思いが再燃し、是非にも川本幸民伝を舞台化して、故郷三田の偉人を広く発信したいと『ドラマ九鬼奔流で町おこしをする会』の高田様、野上様から資料や知恵をお借りして脚本執筆にかかり、二月に、故郷三田の偉人・川本幸民伝『ええお日和やなあ』二幕十九場の第一稿が書き上がり関係者に読んで頂いてご批評いただいております。

本格的市民俳優養成『三田演技塾』設立

脚本の次は出演者の確保ですが、市民参加型での公演を考え、演技力は未知数でも、市民の才能開花に期待して、演技

の特訓塾を開塾。市

民俳優の養成をして公演に備えることと致しました。時代劇ですから、所作習得の日本舞踊、殺陣、演技、台詞、標準語アクセント、着付け、メイク、舞台用語などを、現役の俳優、スタッフが責任指導に当たります。

公演は二〇一〇年生誕二百年の秋

公演本番は川本幸民生誕二百年の平成二十二年（来年）の秋とし、それまでに二回の学習成果発表会も企画して、三田の民話を上演することも考えております。演技の特訓塾は『三田演技塾』の名で七月に開塾。ただ今、申し込み先着順にて塾生希望者大募集中です。年齢は子どもから高齢者まで性別は問いません。受講料は週二回程度の講義で月額一万円ですが割引制度もあ

地域のホテルの新しい取り組み

『三田の歴史』で町の活性化をめざす

三田は幕末から明治時代にかけて川本幸民をはじめ、多くの分野で逸材を輩出しています。しかし、三田市民には広報・PR不足もあり、これらの人物はほとんど知られていないのが現状です。先日、NHKのテレビドラマで話題となった白洲次郎の祖父、白洲退蔵が幕末の三田藩の家老であったこともあまり知られていません。また、そのほか三田学園の設立に尽力した小寺泰次郎、幼児教育のパイオニアである甲賀ふじ、和久山きそ、心理学の先駆者の元良勇次郎など各分野において多彩な人物が三田から輩出しています。そのような三田が生んだ歴史上の人物にスポットをあて、「歴

史」で町を盛り上げようという取り組みが進められていきます。ウッディタウンの神戸三田新阪急ホテルでは、昨年赴任された副支配人が歴史をテーマとした新しいイベントを計画されています。かつて副支配人は、京都のホテルで勤務されてきました。その時、京都の歴史をテーマとした新しいイベント開発でお客様に喜んでいただいたという実績をおもちです。三田においてもなかおもしろい企画で、お客様の注目を集めることはできないものかと考えておられました。そして、副支配人はインターネットのホームページでNPO法人「ドラマ九鬼奔流で町おこしをする

会」の存在を知り、当会に協力を求めて来られました。当会としては協力を約束し、以前に製作したパンフレット「九鬼水軍と三田の歴史・九鬼奔流」を100部、無償提供しました。神戸三田新阪急ホテルでは、宿泊のお客様に三田の歴史を知っていただくこと、各部屋にパンフレットを配付することです。三田の歴史を多くの方に情報発信することは地域のホテルとしては、お客様の知的好奇心を刺激することになり、ホテルのプレスページも上るといえることになるようです。神戸三田新阪急ホテルの新しい取り組みに期待がふくらみます。

(文・小川貞昭)

幸民ビールの原点を検証する

ビール醸造の先駆者となった川本幸民

西洋の理化学を広めることに尽力したビールづくりに着手

嘉永8年（1853）、日本中が浦賀沖に現れた四席の黒船に揺れる中ビール醸造を試みた日本人がいました。三田藩の蘭学者川本幸民です。幼い頃から学業に長けていた幸民は、最先端の学問であった蘭学を学び、主に西洋の理化学を日本に広めることに大きな功績を残した人物です。それまで「舎密（せいみ）」と呼ばれていた学問分野を「化学」という言葉にかえたのが幸民です。そのほか「蛋白」「大気」「軽金属」「ブドウ糖」「合成」といった、今ではなじみのある数々の化学用語も幸民によって最初に用いられました。また幸民は、西洋の科学や文化を書物から知るだけでなく、実験や製作も行いました（日本で初めてマッチや写真機をつくったとされています。そのあくなき探求心を持った幸民の目に、西洋の不思議なみ物「ビール」がとまったのです。

日本ではじめて「化学」という言葉を使う

お酒が原因で騒動を起こすほど、川本幸民は大のお酒好きでした。そんな幸民が自分でビールをつくるきっかけとなったのが「化学の学校」という一つの書物との出会いでした。これはドイツの農芸化学者が著した化学書で、そのオランダ語訳を幸民がさらに和訳し「化学新書」しを著しました。その中にビールの醸造方法が詳しく書かれていました。そこには現代にも通用するビール醸造理論の基本が記され、正確な糖化時間や温度、その原理に関する記述もありました。これを見た幸民はもちまへの探求心から、さっそく自宅での試醸にとりかかり、日本人で初めてビールをつくることに成功したといわれています。化学に関する蘭学書を熱心に翻訳する幸民の姿からは、欧米の先端技術を紹介することによって日本人が西洋の国々に追いつく手助けをしようという強い意志がうかがえます。この幸民の情熱が、ビール醸造にかりたてた要因かもしれません。

百五十一年の時を経て幸民の取り組んだビールが復元

川本幸民が「化学新書」をもとにつくったビールとは、どんな味だったのでしょうか。復元にあたりたキリンビールでは当時の史料からできる限りのことを読み解き、幸民が日本語訳をした「化学新書」に記された醸造法に則って行われ生じた。この醸造法は、現在のビール醸造技術と比べて大きな違いはありません。ビールの場合、まず原料の麦に含まれるでんぷんが、麦芽の酵素によって糖に分解されます。製麦についてや、麦汁を得るときに酵素が最もよく働く温度についての正確な記述もありました。酵母については、記述が不十分であったため、当時日本でもよく飲まれていた日本酒の酵母を使用したのではないかと推測し使用されました。その結果、ほのかな甘味と豊かな香り特徴に持ち、炭酸が弱く、アルコール度数は約4.0%のビールが出来上がりました。

「あいたい兵庫デスティネーションキャンペーン」期間中、キリンビール神戸工場で復元した「川本幸民のビール」が試飲できます。(要予約 TEL078-986-8001)

ります。塾生募集と同時に、発表会や公演には出演しないが、理解と協力をして下さる賛助会員も募集中です。一口¥3、500、特典あり。また、協賛、公演下さる団体もただ今交渉中です。

お申し込み、お問い合わせ先

お申し込み、お問い合わせは左記にご連絡下さい。

(文・中畑八郎)

誇りに思う三田自慢を発信『三田演技塾』

- 塾 頭：中畑 八郎
- 住 所：〒669-1529 三田市中央町2丁目20番地
- 電 話：079-563-1808
- 携 帯：090-8888-5084